



南風泊市場  
セリは「袋セリ」と言われ、セリ人と業者が布袋に手を入れ、指先で値段を決める独特のもの。



赤間神宮  
源平壇之浦の合戦に破れ、わずか8歳で関門海峡に入水された安徳天皇を祀っている。壇之浦を望む水天門は「海の中にも都はある」という二位の尼の願いを映したといわれる鮮やかな竜宮造り。



### 巖流島

慶長17年に宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘したことで有名な、海峡に浮かぶわずか1・65万㎡の小島（現在は埋め立てて10・3万㎡）。海沿いの散策道なども整備され、観光スポットとなっている。



下関分科会

## 海峡時代絵巻 海峡千年の歴史と「ふく」のフルコースツアー

海峡と数々の歴史、人情と四季折々の食材でおもてなし。ようこそ、しものせきへ。

## 下関市 SHIMONOSEKI CITY

古くは赤間関（あかまがせき）とも呼ばれていた下関。本州の最西端に位置し、山陽道と山陰道の起点となり、さらには関門海峡を挟んで西を日本海、南を瀬戸内海に接する位置にあることから、古来より陸と海における交通の要衝でもあった。食文化で代表されるのが「河豚」。明治の解禁以降その名が知られることとなったが、下関は古くから河豚を食す習慣があり、このことが本場下関といわれるまでの歴史を積みかさねてきた。現在、全国一の河豚の水揚げ高を誇っている。また、下関は日本の歴史において数々の場面でも登場する。公家の世から武家社会への転換期である「源平壇之浦の戦い」。決闘として有名な宮本武蔵と佐々木小次郎「巖流島の決闘」は今から399年前のこと。そして、武家社会に終わりを告げ、明治維新へと導いた「幕長戦争」の舞台もこの下関。人情も捨てたものではない。安徳帝と平家滅亡を悼み、以来より続く「上臈参拜」や「平家踊り」。決闘で散った敗者の名を刻む「巖流島」。歴史の中に散っていた人々を心に刻み続ける人情味あふれるまち、それが、食と歴史と人情のまち下関。

### 海峡の歴史と本場ふくを存分に堪能。

日本屈指の天然ふく取扱量を誇る市場「南風泊市場」で、早朝の活気溢れる「袋せり」の見学は二見の価値あり。

また、源平の命運を分けた「壇之浦の戦い」の舞台となった海峡をクルージング。武蔵・小次郎の決闘の地「巖流島」へ上陸。約四〇〇年前の歴史的な舞台に想いを馳せながら島内を散策。

夜には、豪華絢爛な衣装を纏った平家の女官による上臈参拜など、下関の豊かな歴史を分かりやすくお届けする「海峡千年の歴史ドラマシアター」を鑑賞。

その後、市内ふく料理店にて、本場の「ふく」フルコースを堪能。

### ふくのフルコース

本場のふくを、刺身、から揚げ、鍋に雑炊と、存分にご堪能していただきます。

#### ふくを“ふく”と呼ぶゆえん

下関では河豚のことを幸福を表す福とかけて「ふく」と表現し、縁起のいい魚として親しまれている。

1日コース



### 唐戸市場

「関門の台所」として賑わう卸売市場。市場の活気を感じ会話を楽しみながら買い物できる。（コース内容に入っておりません）



### ドラマシアター「海峡千年・時代絵巻」

下関を舞台に繰り広げられた歴史ドラマを綴った舞台劇。源平の戦いに始まり、怪談『耳なし芳一』、巖流島の決闘、幕末が舞台の奇兵隊、また、赤間神宮の上臈参拜等、優雅な世界も特別再演。

11月25日（金）9:00～19:00 ※南風泊市場見学および火の山夜景見学は希望者のみ

南風泊市場見学 関門海峡を体験するクルーズ船 巖流島上陸 平家ゆかりの地 海峡メッセ

市内ふく料理店 「火の山」夜景見学